

通信 組合	府中稲城不動産 取引業組合
同 舟	
7 11月号	編輯兼発行人 高野豊次

定例十一月理事会開催

- 一、と き 十一月九日午後四時より
- 二、ところ 甲府市湯村 富士野屋
- 三、出席者 山村、辻、榎峠、結城、高野、
各理事、外に加藤連合会企画部
長



要領次の通り

A 報告事項

(イ) 物件斡旋所設立の件

連合会企画部として物件斡旋所を設
立の企画ある旨加藤企画部長より説明
あり、但し、物件は未だ企画の域を脱せ
ず、いづれ今後詳細検討の上改めて協議
の運びとなる旨報告あり。

(ロ) 斡旋調書提出の件

斡旋調書を提出するか否かは、今も
つて賛否半ばにして連合会は当分成行
きを見守る由、山村理事長より報告あ
り。

(ハ) 新年宴会に関する件

連合会厚生部案として、各地区組合
の新年宴会に連合会よりも二、三の幹
部が参加したき模様、従つて当組合の新
年宴会は一月十六日頃に願ひ度く申し
越しありたる旨、山村理事長より報告

あり。

(ニ) 大運動会実施の件

連合会の計画として明年四月の候、
大運動会を開催したき趣、山村理事長
より報告あり。

(ホ) 無登録業者対策に関する件

連合会調査部は目下無登録業者対策
に腐心しつつあるものゝ如く、悪質業
者についても摘発する意気盛んにつき
若し、かゝる者を発見したる場合は速
感なく連合会調査部に連絡願ひ度き旨、
山村理事長より報告あり。

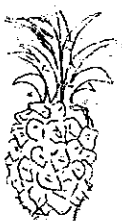
B 協議事項

(イ) 組合規約改正に関する件

先に辻、結城、両理事に於て作成し
た草案につき各理事の意見を求めたる
に対し、高野理事より字句の訂正その
他に関し意見開陳あり、一同これを了
承した。尚本件は総会に附議するの要
あるを以て来る、昭和四十年一月の定
期総会に上程致し度き旨、辻理事より
提案あり、一同これまた了解した。

附記

従来の定例理事会は概ね理事長宅で
開催したが今十一月分は聊か趣きを変え
甲府市湯村に出張会議することとした。
尤も各員の都合上全員が出席出来なかつ
たことは遺憾であるが、会議は終始談笑
裡に進められ、有意義であつた。因みに
出張理事会の経費は各出席理事が自弁し
組合の経費を使用したものでないので為
念附け加えておきたい。



◎ 加藤政五郎顧問東南アジア視察

当組合の顧問で、大恵紀八調連合会々長加藤政五郎氏は今般他務を帯び旁々不動産商況
調査の為、十一月三日羽田空港を出発、一ヶ月の予定で東南アジアを旅行する。いづれ帰
朝の上は当組合へも委細報道があるものと思われが無事健康にして旅行を続けられんこ
とを折念して止まない。

尙これが社図を祝福する為、十月十七日、京王線多摩川、料亭喜楽に於て社行会を催し
た。主催者は前記大恵紀八調会（大國、えびすや、紀の国屋、八広、調布土地の五者）な
るも、出席者は各層の名士九十名に達し、至つて盛会であつた。

人と店



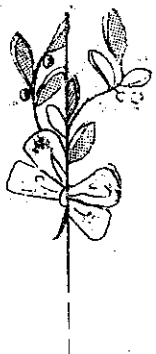
温厚実直の権化ともいう人に辻金吾氏がいる。
氏は佐賀県鹿島市の産、地元中学校を卒業後立正大学に学んだ。ところで僧侶になるのがいやで満洲に渡り大学で学んだ支那語をもとで日本軍や華北交通の通訳をつとめた。終戦引揚後は一時魚屋を始めたがおもしろからず、上京して土建会社に勤務した。たまに友人のすゝめもあり昭和三十三年にダイワ不動産に入社、こゝに於て山村社長より約一年に亘り実務の伝修をうけた後昭和三十四年七月、東府中駅前共栄商事を独立した。氏の世話好きは誰知らぬものはないが特に組合の総務的庶務的な仕事には得意さがあり熱心さがある。

その一例として這般の連合会旅行に出発の間際に至つて特急券を頼む人があり、それを無理とは承知しながらも新宿まで出向いていろいろと交渉の末とうとうこれを入手したその功績は氏でなければやれない芸当であり実に感歎に値する。

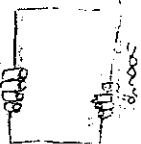
斯くした温厚と実直それに生来の世話好きが自然と無形の資本となり本来の業務も日に日に上昇し一人の顧客は二人を、二人の顧客は更らに四人をと鼠算式に得意がふえ従つて商売は益々繁昌しつゝある。

願はくは自重自愛の上高く評価される君、生来のこのよさを忘れることなく益々努力精進せられんことを、望んで止まない。

◎連載「白川郷」は紙面の都合により休載



環流



商売は至つて上手で所謂全儲けは万点である人が実際の会計の事になると、会計そのものゝ事務が分らない人が洵に多い。例えばバランスシートを一目みて、この店は幾干の損益があるかどうかを見分ける御仁は先づ何人あるうか。要するに会社にせよ個人にせよ運営の根本は会計にあるので常に生きた会計を把握することが最も必要である。

そして萬一、その筋から踏み込まれる様な場合があつたとしても、決してうるたえることなく生きた会計帳簿によつて堂々と説明が出来る様常時心掛けねばならない。そして計理士を頼むことも良いが本当の会計を把握せんとせば自らがその衝に当ることとその実体をつかむことが必要である。どんなぶり勘定乃至大福帳は遠く明治の時代となつた。

編輯後記

○あと一ヶ月で正月である。一年の歳月はまことに早く、昔の言葉を借りて言うならば光陰矢の如しである。

○「一発を当てよ当てよと年を越し」では困る。
是非年末までには一発を当てたいものである。

○余りボロ儲けをしなくてもよいが、年末賞与に匹敵する様な若干の儲けがほしいものである。豈私のみならんやである。

昭和三十九年十一月十一日

167号の編輯を終りて

高野しるす

